

# 社会人向けオンライン学習プログラムにおける eポートフォリオ導入・運用のためのサポートと工夫

Support and Implementation of ePortfolio to Online Program for Adult Learners

長岡 千香子, 平岡 斉士, 喜多 敏博, 山下 藍, 鈴木 克明

Chikako NAGAOKA, Naoshi, HIRAOKA, Toshihiro KITA, Ai YAMASHITA, Katsuaki SUZUKI

熊本大学

Kumamoto University

<あらまし> 社会人学習者が参加するオンライン学習プログラムでは、プログラム内における学びを将来的なキャリアアピールとして提示したり、リフレクションとして見返したりする可能性が考えられる。その学びをまとめる手段としてeポートフォリオの利用が考えられるが、ITスキルやeポートフォリオの作成経験に乏しい学習者の場合、eポートフォリオの作成には多様な面からの支援が必要であると考えられる。本研究では、実際に運用された社会人向けのオンライン学習プログラムに対してeポートフォリオを導入し、その導入および作成に対して、(1)掲載するコンテンツの選定・質保証(2)技術的支援(3)利用可能性の明示という3つの観点から支援を行った。本稿では、各支援の内容について説明する。

<キーワード> 社会人教育, 授業実践, 学習環境, ポートフォリオ, オンラインプログラム

## 1. はじめに

近年、将来の自身のキャリアにつなげるために、社会人が大学等の高等教育機関が提供するオンライン学習プログラム等に参加する事例が増えている。プログラム内における学びを将来的なキャリアアピールとして提示したり、リフレクションとして見返したりする可能性が考えられるが、一般的に発行される修了証明書等では具体的にどのような知識やスキルが身についたのかを対外的に証明したり、リフレクションすることは困難である。また、学習時に利用したLMSの画面をみても、効率よくリフレクションできるとは限らない。

上記を踏まえると、eポートフォリオ等でそのプログラム内における自身の学びをまとめることが一つの手段として考えられる。しかしながら、eポートフォリオの運用は容易ではなく、まず、どのような学習成果物を掲載すべきか選定したり、掲載する学習成果物の質が保証されている必要があり(掲載するコンテンツの選定・質保証)、いきなり学習成果物をeポートフォリオに蓄積するように言われても、適切に選択できるとは限らない。また、オンラインプログラムに参加する社会人学習者のITスキルは多様であり、eポートフォリオとしてどのようなITツールを利用し

たとしても、自力でeポートフォリオの構築・利用ができるとは限らず、何らかの技術的な支援が必要となる(技術的支援)。また、eポートフォリオを日常的に利用しているとは限らない学習者に対して、どのような利用可能性があるのかを明示することで、将来的な活用につなげてもらう必要がある(利用可能性の明示)。

本稿では、実際に社会人向けのオンライン学習プログラムにおいてeポートフォリオを導入・利用するために行った支援およびその結果について説明する。

## 2. ポートフォリオの導入・運用

eポートフォリオを導入した「教育改善スキル習得オンラインプログラム(科目デザイン編)」(2019年12月から2020年3月)は授業の設計について学習するプログラムである。学習者はプログラム内で「モジュール1:大学教育に関する5つの物語」、「モジュール2:認知的発達を促す授業方法」、「モジュール3:評価と単位認定の見直し」、「モジュール4:学習目標の高度化」といったモジュールと呼ばれる学習コンテンツを学びながら、自身が所属機関で担当する科目の改善を行う。尚、本プログラムではeポートフォリオシステムとして、WordPressを利用し、学習者は自由にログインし、編集ができる状態にした。

**ポートフォリオ**

プログラム内で提出した課題を元に  
将来的にリフレクションをすることが可能。  
+  
将来のキャリアアピールのために、  
学習者自身が目的に沿った形で編集することが可能。

**(支援1)**  
掲載するコンテンツの選定・質保証

掲載するコンテンツの選定及び掲載  
教員が合格基準を満たしたと判定したコンテンツを  
掲載

**(支援2)** 技術的な支援

学習者自身の編集スキルの向上機会の提供  
(編集スキルの修得)

各モジュールで提出した学習成果物などの代理掲載  
(コンテンツの代理編集)

**(支援3)** 利用可能性の明示

「自分自身の学び（過去と現在の比較）」と「身  
につけた知識・スキルをどのように活かすのか（未  
来に向けた行動計画）」のリフレクションの促し  
→将来的なリフレクション機会の提供

修了証明書と併せた活用可能性の説明  
→将来的なキャリアアピールでの利用

図1:e ポートフォリオの導入・運用に対する3つの支援

## 2.1. 掲載するコンテンツの選定・質保証

本プログラムでは、改善前と改善後のシラバス、各モジュールで提出した課題、課題に対する教員からのコメント等、将来的なリフレクションやキャリアアピールで重要な情報となりそうなコンテンツを掲載するようにこちらで設定した。また、コンテンツとして掲載する学習成果物については、必ず教員からの評価を受けて合格したものとした。

## 2.2. 技術的支援

技術的支援としては、学習者自身のeポートフォリオ編集スキルの向上機会の提供(編集スキルの修得)と、各モジュールで提出した学習成果物などの代理掲載(コンテンツの代理編集)という2つの側面から支援した。編集スキルの修得については、プログラムの最初に学習する「オリエンテーション」において、eポートフォリオへ実際にログインし、自己紹介文を掲載する学習活動を行ってみることで、編集方法の基礎的な知識・スキルを身につけてもらった。また、eポートフォリオにコンテンツとして掲載する課題等の学習成果物については、サポートスタッフ側で教員からのコメントも併せて掲載することで、学習者の負担感の軽減につなげた。

## 2.3. 利用可能性の明示

本プログラムではすべてのモジュールの学習

が完了した後、各モジュールで提出した学習成果物等のコンテンツが掲載された状態のeポートフォリオを元に、将来的にeポートフォリオをどのように利用すべきかについて、学習者に対して説明した。具体的には、eポートフォリオの利用方法について、(1)自分自身の学び(過去と現在の比較)(2)身につけた知識・スキルをどのように活かすのか(未来に向けた行動計画)等のリフレクションが可能である旨を説明する等をした。また、学習者自身が希望する場合は、eポートフォリオに対するテキスト情報の追加、リフレクションの書き込み等を行うことができるようにテンプレートなどを埋めこんだ。

## 3. アンケート結果

本プログラムでは15名の参加者のうち、10名の学習者がプログラム内の学習すべてを完了し、そのうち7名が事後アンケートに回答した。「ポートフォリオはどのような目的で利用しますか?」という質問に対して、「自身の学びを振り返るために利用する」と「将来、就職先等に提示することで自身の学びをアピールする」の両方と回答した回答者が4名、「自身の学びを振り返るために利用する」と回答した学習者は3名であった。